

信州F・POWERプロジェクトの進捗状況等について

資料 1

1 施設整備計画の概要

(1) 施設整備計画

区分	内容 (特徴)	事業費 (百万円)
木材加工施設	①原木利用量：10万m3 ②樹種：アカマツ、広葉樹、カラマツ等	5,162
製材施設	貯木場、選木機、剥皮機、製材機、乾燥機、製品加工機、管理棟、作業用建物、製品保管庫、作業用機械	4,427
用地造成		735
木質バイオマス発電施設	① 発電規模 10MW/h ② 原木利用量 18万m3 (製材端材7.5万m3_未利用材10.5万m3)	5,733
発電施設	ボイラ、発電施設等	4,200
木質チップ製造施設	チップ、チップ保管庫、チップヤード等	1,533
合計		10,895

3 プロジェクトの推進体制

産学官の連携によるプロジェクト推進体制

【信州F・POWERプロジェクト推進戦略会議】

(座長: 東大 井上準教授、他 信大、征矢野建材(株)、国有林、塩尻市、県で構成)
プロジェクト全体の課題・方向性を検討

【安定供給検討委員会】

(座長: 信大農 植木教授、他 県木連、県森連、納材協会、素材生産事業者、征矢野建材(株)等で構成)
安定供給体制(サプライチェーンセンター)の構築に向けた課題・方向性、運材システム、未利用材搬出システム等を検討

【施設整備委員会】

(座長: 東大 井上準教授、他 公的試験研究機関、自治体、征矢野建材(株)関連企業等の有識者で構成)
木材加工コストシミュレーション、乾燥技術の構築、販路の確保・開拓、新規製品の開発等を検討

【信州しおじり木質バイオマス推進協議会】

(会長: 塩尻市小口市長、他 信大、東大、農林業関係団体、銀行、地元区等で構成)
発電及び熱利用に関する課題・方向性を検討

4 素材の取引想定価格(H24公表)

樹種	素材価格 (円)	
	製材用 (m3)	発電用 (m3)
アカマツ	8,000~ 13,000	5,000~ 8,000 (8,000~ 11,000)
広葉樹	8,000~ 25,000	
ヒノキ	未定	
カラマツ	未定	

※1) 発電用の単価はF i t 32円適用
※2) 発電用欄 ()はトン当たりの単価
(含水率30%、比重0.7)

(2) スケジュール

項目・年度	H24	H25	H26	H27	H28
用地造成					
木材加工施設	・計画策定 ・開発許可 ・資金計画	工場制作含む	試験稼働・本格稼働		
木質バイオマス発電			工場制作含む	試験稼働・本格稼働	
熱利用施設整備				熱供給施設設計・整備	
原木の安定供給体制		サプライチェーンセンターの構築	需給情報の一元管理・低コスト安定供給		

2 今年度の目標と取組状況

安定供給

【主な目標】①森林経営計画策定面積(累計)181千ha ②サプライチェーンセンター機能の構築
【取組状況】①林地の集約化による森林経営計画の策定 ②未利用木材生産システムの検証(アカマツ被害材・広葉樹・林地残材) ③低コスト更新施業指針の策定に着手 ④サプライチェーンセンターの構築に向けた検討会の開催(6月・9月) ⑤素材生産事業者39者への個別協力依頼 ⑥フォレストコンダクター育成研修の実施 ⑦シンポジウム等の開催(8月・10月)

施設整備

【主な目標】①用地造成に着手 ②製材・発電施設の整備に着手
【取組状況】①製材・発電施設整備補助金(融資)を6月補正予算に計上 ②10/3に都市計画法・森林法の開発許可 ③10/3に木材製造高度化計画の認定 ④10/16用地の賃貸借契約締結 ⑤10/17起工式の挙行 ⑥フローリング等内装材の開発、需要拡大に関する調査の実施(林野庁直接交付金事業) ⑦接着重ね梁の建築基準法大臣認定試験の開始(信州の木先進的利用加速化事業)

熱利用

【主な目標】①チップ品質基準の作成 ②熱利用モデルプランの作成
【取組状況】①チップ品質基準の作成を森のエネルギー研究所に委託(環境省委託事業) ②熱利用モデルプラン作成検討会の実施(環境省委託事業)

集中型加工施設・木質バイオマス発電施設の配置図

